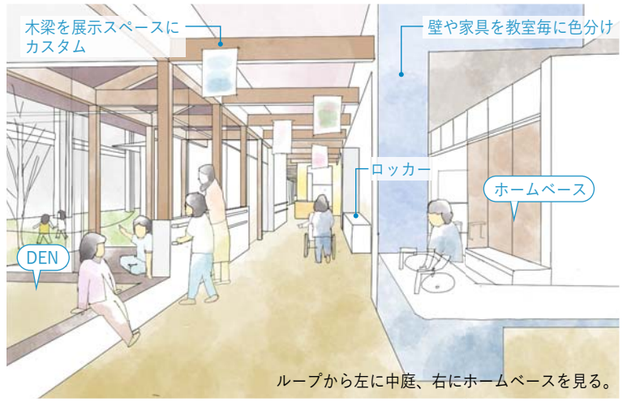
テーマ２：ＮＳＤに準じた学習空間に対する理解及び検討

●子どもたちが自分で見つけられる居場所

・小さなひだやコーナーを沢山持つ空間とし、生徒一人ひとりの心身の状態にあわせて、選択性のある環境をつくります。
・廊下に面して［ホームベース］を設け、ロッカーや手洗い、壁等を教室毎に色分けし、自分の教室を認識しやすくします。
・ホームベースの並びに教材置場にもなる［TS:ティーチャーズステーション］を設けます。
・教室は正面性がなく、可動家具や間仕切りによって小さなスペースをつくったり、小上がりのリラックススペースを設け、生徒の特性や調子に応じた、フレキシブルな学習空間とします。
・教室から独立した空間として、小規模な室［DEN］をところどころに設けて、個別学習や、心を落ち着ける空間として設えます。

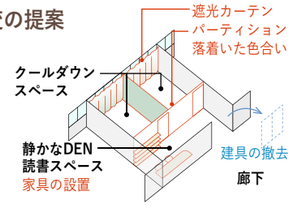


ループから左に中庭、右にホームベースを見る。

普通教室の様子

●簡易な工事による既存校舎の改変の提案

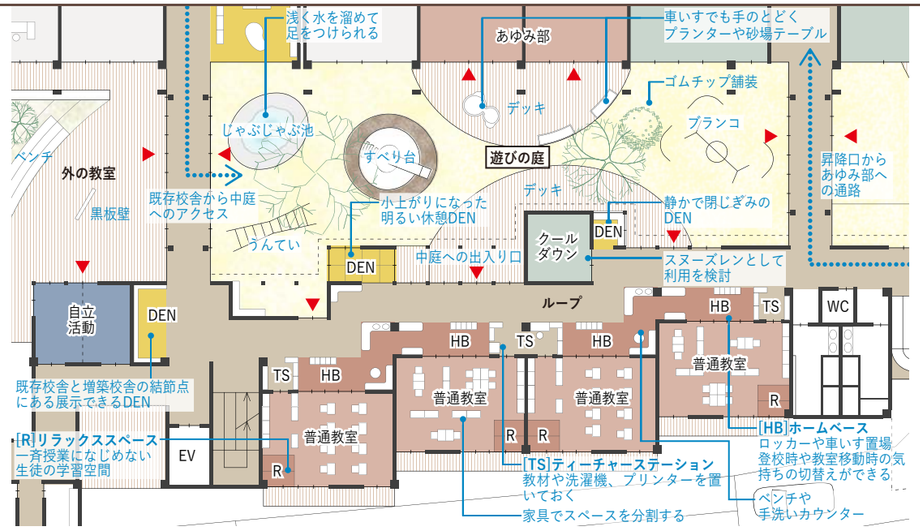
・新築棟との教室入替えで生じる空き教室は、扉を外す、ベンチや簡易なパーティションを設置するなど、短期間、低予算でできる工夫により、DENとして利用する事を提案します。



テーマ４：事業実施に係るプロセスマネジメント

●学校・地域と共に学びあうプロセス

・先進事例の発表,共有や、地域や学校へのヒアリング,リサーチ等、関係者全員が共に学び合いながらつくるプロセスとします。
・検討対象を明確にし、複数案の比較検討の議論をベースにしたワークショップの進行をします。
・建築設計の工学的判断と長期的視野に立った基本計画案を作成し、WSの意見反映を明示する透明なプロセスに努めます。
・寿台ならではの特別な空間を、できる限り地域に流通する一般的な材料や工法で作り、地場産業へ寄与する事を目指します。
・基本計画から建設までのプロセスを通して、生涯学習の場として地域と学校が関わりあうネットワークの強化に努めます。



●気軽に利用できる中庭

受付番号

・新校舎では廊下から軒下を経て、中庭に直接出られます。渡り廊下にも中庭への出入口を設け、旧校舎を使うの生徒たちもアクセスしやすいようにします。
・デッキやゴムチップ舗装など、上履きのまま外に出られる仕上を考えています。

遊びの庭の様子

テーマ３：構造・設備と事業全体のコストコントロール

●堅牢な RC と柔らかな木造の組合せ

・教室部分は床遮音を考慮したRC造とし、中長期の改修を見据えた堅牢なフレームとします。一方、廊下部分は木造とし、棚の追加などカスタマイズがしやすいつくりとします。

●積雪への検討・維持管理について

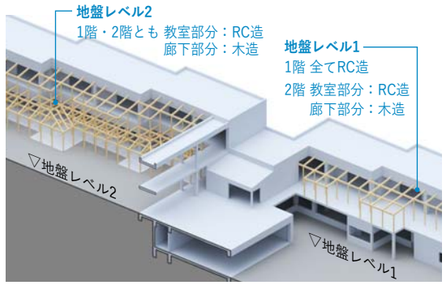
・安全に配慮し、耐雪型、無落雪の屋根を基本とします。出入口には必ず庇を設け、荒天時でも出入りし易くします。屋根はすがもれ、つららを作らない軒先ディテールとします。
・車路は除雪車が交通可能な幅員とし、滑り止めや凍結防止効果のある舗装を選定します。

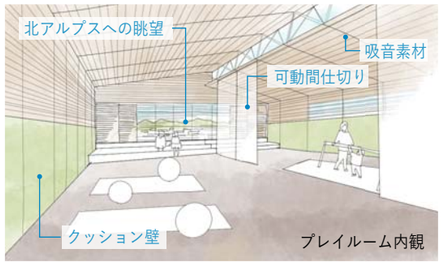
●柔らかな光と素材のプレイルーム

・天井の吸音や、住宅地側に極力窓を設けない等、周辺の音環境に配慮した計画とします。
・高さ2m迄はクッション材の壁とし、窓には衝突防止の木製ルーバー建具を設けるなど、安全に生徒たちが活動できる空間とします。

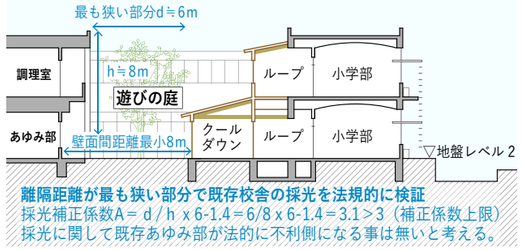
●既存校舎との離隔、西側住宅地への配慮

・既存棟あゆみ部教室への採光に問題ないよう、基本10ｍ以上の壁面間距離をとります（一部の最接近箇所は8m）。
・敷地の高低差に沿って2段階のレベルを設定し、それぞれ2階建てとし西側住宅地への圧迫感を最小限に抑えます。
・教室窓面へのルーバー設置、敷地内への植栽により、互いのプライバシーへ配慮します。



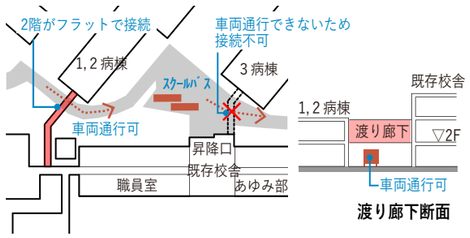


プレイルーム内観



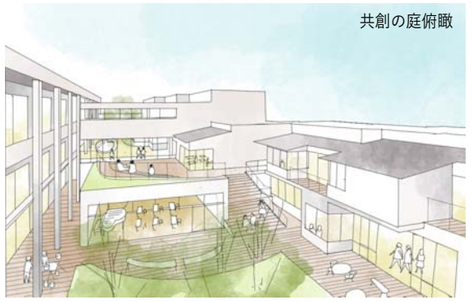
●病院との連携と、日影規制の考え方

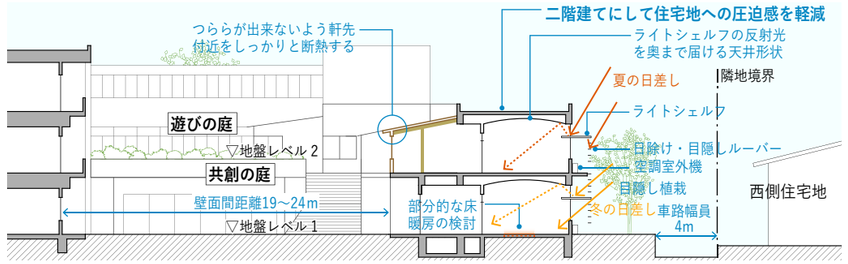
・２階レベルに渡り廊下を設け、あゆみ部や職員室からフラットで病院にアクセス可能で、1階レベルで車の通行高さも確保できる、1,２病棟への接続を検討します。
・病院と学校は用途不可分で、かつ増築による日影が現状より増大しないものとし、松本市建築指導課と協議をすすめます。

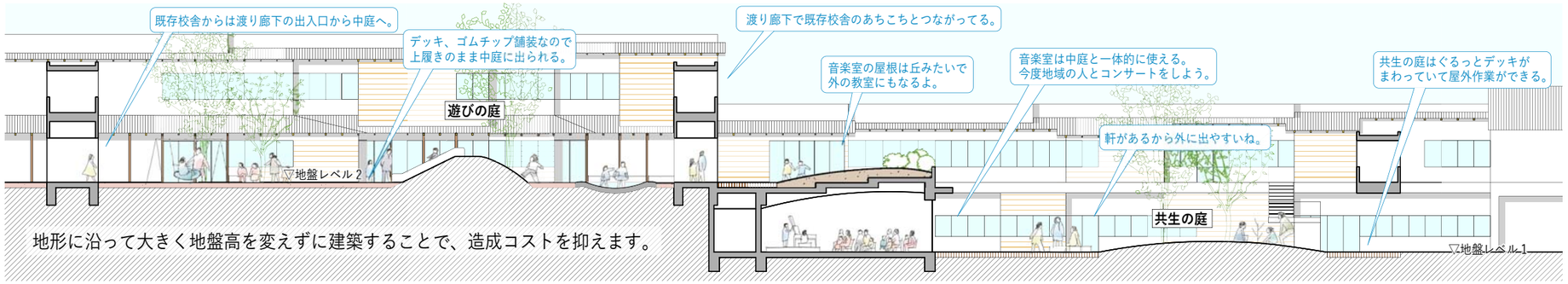


●松本の厳しい気候に配慮する設備計画

・屋根や外壁の断熱、サッシの高断熱化を徹底し、室内での温度差が無く、場所によって寒さを感じないようにします。
・自然光や風を採り入れながら、LED照明や人感センサー等省エネ器具を用います。
・パッケージエアコンと全熱交換機(加湿付)による、合理的な空調計画とします。
・予算を睨みながら、接地階には部分的に床暖房を設置し、床に座ったり寝転んだりしても底冷のない環境づくりを検討します。







地形に沿って大きく地盤高を変えずに建築することで、造成コストを抑えます。